FUJIFILM

株主のみなさまへ

FUJIFILM NEWS

June 2008 vol.74

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平成19年度の業績の振り返り

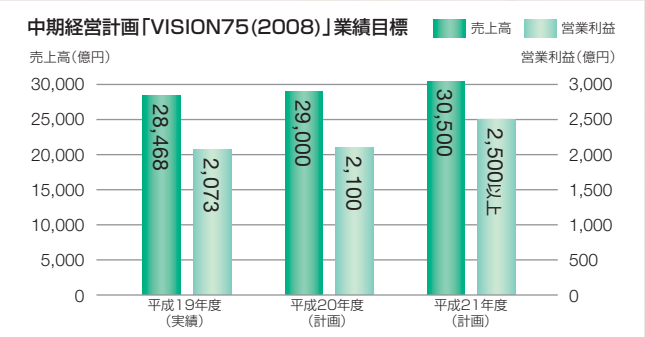
当社の平成19年度（平成19年4月1日～平成20年3月31日）の連結売上高は、2兆8,468億円（2.3%増）となりました。デジタル医用画像関連製品を中心に販売が増加したメディカルシステム事業、需要拡大に伴い生産能力の増強を進めているグラフィックシステム事業、フラットパネルディスプレイ材料事業をはじめとしたインフォメーション ソリューション部門が好調に推移しました。また、ドキュメント ソリューション部門も海外を中心にカラーデジタル複合機の売上が堅調に推移したほか、為替レートが対ユーロで円安に進行したこともプラスに影響しました。

営業利益については、アルミや銀などの主要原材料価格が高水準で推移したほか、第2四半期より減価償却方法を見直したことに伴う減価償却費の大幅増加、製造原価の削減や販売費及び一般管理費比率の低減、研究開発費の効率使用を目的としたスリム&ストロング活動に伴うコストの増加がありました。しかしながら、各事業分野における販売の増加、前年度まで集中的に実施した構造改革による固定費の削減効果やスリム&ストロング活動の効果などが寄与し、2,073億円（83.4%増）と大幅増益を達成しました。売上高・営業利益ともに過去最高の実績となり、税引前利益についても1,993億円（93.0%増）、当期純利益は1,044億円（203.2%増）と、ともに大幅増益となりました。

※ 増減率は、いずれも前年比

株主還元について

平成19年度より、株主還元性向の目標を25%（当期純利益に対する、配当と自社株買いを合わせた総額の割合）に設定しました。実績としては、年間配当を10円増配して35円としたことと、670万株の自社株式取得（取得額341億円）を行ったことで、目標を大きく上回る50%となりました。



中期経営計画「VISION75（2007）」の取り組み

「VISION75（2007）」では、“成長戦略のさらなる推進”と“強靭な企業体質の実現”をテーマに、重点事業分野への投資の強化や、スリム&ストロング活動を推進してきました。成長戦略の一つとして、これまで診断・予防の領域で事業を進めてきたメディカルシステム・ライフサイエンス事業のさらなる拡大を目指し、平成20年2月に富山化学工業株式に対するTOB（株式公開買付）を行い、同年3月に同社を子会社化して治療薬領域に本格参入いたしました。今後、同社の持つ有力なパイプライン（新薬候補）や創薬における高い技術力に、当社の持つ資本力や約20万種の化合物ライブラリー、合成・解析・生産といった基盤技術を組み合わせることで、異業種連携による画期的な新薬開発を進めていきます。

スリム&ストロング活動の一環としては、シェアードサービス会社を設立し、当社グループ企業のオフィスサービス、福利厚生、保険代理業務、間接材購買機能を集約し、業務プロセスの標準化・統合などによる徹底した効率化を図っています。また、事業領域においては、厳しいデジタルカメラの市場競争を勝ち抜く事業基盤構築のため、デジタルカメラ生産の中国全面移管とCCD前工程生産の外部委託、製品開発や調達、品質保証機能を一拠点に集約するなど、コスト競争力の強化を図っています。

中期経営計画「VISION75（2008）」の達成に向け

平成20年度の事業環境を展望しますと、サブプライムローン問題に端を発した米国経済の減速、ドル安・円高の進行、銀・アルミなど主要原材料価格の高止まりなど、昨年度以上の大きなマイナス影響を予想しています。このような環境の中、「VISION75（2008）」で掲げる成長戦略を加速させ、スリム&ストロング活動を強力に推し進めることで、これらのマイナス影響を吸収し、平成20年度も増益を達成していきます。さらに従来に引き続き、差別化された独自の価値を生む強力なR&D体制を構築していくとともに、競争力の源泉となる柔軟でパワフルな社員の育成を進めます。当社は、変化と前進にチャレンジする企業風土を作りながら、平成21年度を最終年度とする「VISION75」の目標計画（売上高3兆500億円、営業利益2,500億円以上）達成に向けて、全社一丸で取り組んでいきます。

株主の皆さまには、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成20年6月

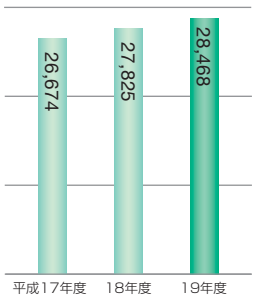
代表取締役社長・CEO 古森重隆

財務ハイライト

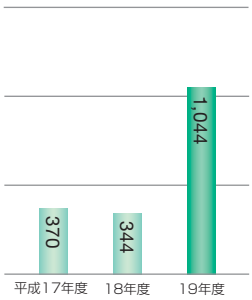
単位:百万円（1株当たり当期純利益、配当金を除く）

	平成19年度	平成18年度
売上高	2,846,828	2,782,526
営業利益	207,342	113,062
税引前利益	199,342	103,264
当期純利益	104,431	34,446
1株当たり当期純利益(円)	205.43	67.46
1株当たり配当金(円)	35.00	25.00
研究開発費	187,589	177,004
設備投資額	170,179	165,159
減価償却費	226,753	215,429
資産合計(期末)	3,266,384	3,319,102
資本合計(期末)	1,922,353	1,976,508

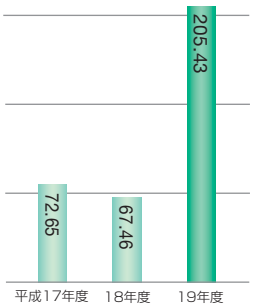
売上高 (億円)



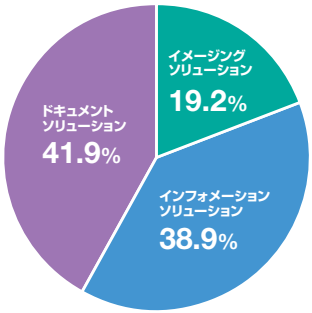
当期純利益 (億円)



1株当たり当期純利益 (円)



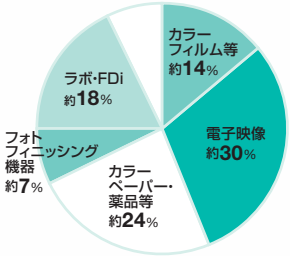
売上構成比 (平成19年度)



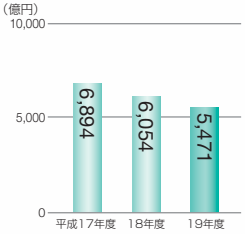
イメージング ソリューション

イメージング ソリューション部門は、カラーフィルム、デジタルカメラ、フォトフィニッシング機器、写真プリント用のカラーペーパー・薬品・サービス等から構成されています。

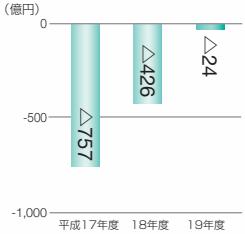
事業別売上構成比



連結売上高



営業損失



写真フィルム市場の縮小、原材料の銀の高騰などの影響を受けたものの円安及び構造改革によるコスト改善効果によって、赤字幅が大幅縮小

イメージング ソリューションは、カラーペーパーの市場シェアアップにより販売が拡大しましたが、カラーフィルムやデジタルミニラボの需要後退などの影響により、売上高は5,471億円(対前年比9.6%減)でした。

カラーペーパーについては、お店プリントの増加や「フォトブック」などの付加価値プリント需要獲得に向けた販促活動強化の効果もあり、販売が堅調に推移しました。本年1月には、オンラインフォトサービスのシステム開発ベンダー、IP Labs GmbHを買収、オンラインフォトサービスの充実を図り、プリントサービス拡大・向上を推進していきます。

カラーフィルムは市場縮小が続き、売上は減少しましたが、競合他社の市場撤退をとらえた販売促進が奏功し、当社の市場シェアは上昇しました。

電子映像事業分野では、厳しい価格競争による単価下落や北米の景気悪化の影響を受けましたが、進化した「顔キレイナビ」を搭載した「FinePix F50fd」や新感覚のラウンド&エッジデザインが好評の「FinePix Z10fd」などの新製品投入により、年間販売台数は800万台超と大幅に伸びました。今後も豊かな階調表現を可能にした「FinePix S100FS」、「顔キレイナビ」の顔検出範囲を拡大した「FinePix F100fd」など独自性の高い新製品を中心に、拡販していきます。

"思いのまま""目で見たまま"撮れる
コンパクトデジカメのフラッグシップ「FinePix F100fd」

シャッターチャンスを逃さない360°×超高速検出の「顔キレイナビ」

▲従来のデジタルカメラ

▲「顔キレイナビ」で撮影
自動で顔にピントを合わせ、明るさも最適化

明暗差の大きいシーンでも見たまま撮れる「ワイドダイナミックレンジ」

▲従来のデジタルカメラ
明るい青空が白くとんでしまう…

▲ワイドダイナミックレンジ
手前の被写体だけでなく、奥の空の青もしっかり再現

空間の広がりや奥行き感のある撮影ができる広角28mm※からの光学5倍ズームレンズ、暗いところでの撮影に強いISO12800+手ブレ補正機能(CCDシフト方式)を搭載するなど、基本機能も充実。

※35mmフィルム換算

Close up ▶ 自分だけのオリジナル写真集がカンタンにできる!「フジカラー フォトブック」サービス本格展開

旅行、誕生、入学、発表会などで撮りためた思い思いの画像で写真集が作れる「フォトブック」。写真プリントと同じ銀写真プリントを使った「フォトブック スクエア」は、街の写真店で簡単に注文でき、オリジナル写真集作りを手軽にお楽しみいただけます。

富士フイルムでは、今後も「フォトブック」のラインアップを充実させていくなど、写真の新しい楽しみ方を積極的に提案・展開し、写真の楽しさ・素晴らしさを発信し続けていきます。

URL http://fujicolorprint.jp/photobook/

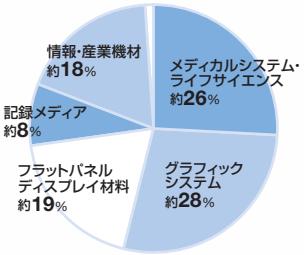
FUJICOLOR PHOTO BOOK SQUARE HI-GRADE PHOTO PAPER

「フォトブック」の楽しさをTVCMや店頭ポスターなどでも紹介 ▶

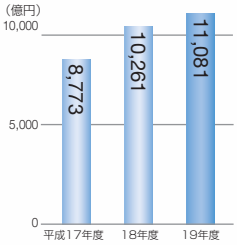
インフォメーション ソリューション

インフォメーション ソリューション部門は、メディカルシステム・ライフサイエンス機材、グラフィックシステム機材、フラットパネルディスプレイ材料、記録メディア、光学デバイス、電子材料、インクジェット用材料等から構成されています。

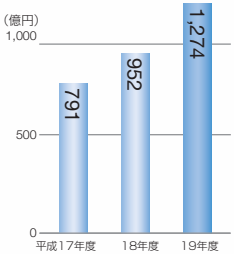
事業別売上構成比



連結売上高



営業利益



メディカル製品、印刷用CTPプレート、フラットパネルディスプレイ材料などの販売増により営業利益は前年比約34%増の1,274億円を達成

インフォメーション ソリューションは、メディカル製品・サービスの販売、旺盛な需要の続くフラットパネルディスプレイ材料、カメラ付き携帯電話用レンズユニットの販売が好調な光学デバイスなどが牽引し、1兆1,081億円(対前年比8.0%増)となりました。

メディカルシステム・ライフサイエンス事業では、海外を中心に「FCR」やドライフィルムなどの機器及び材料の販売が好調に推移したほか、医療機関のIT化が進展する中、医用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」の販売も拡大。内視鏡製品は、競争激化する厳しい環境下ながら、「経鼻内視鏡」をはじめとする特長あるラインアップで、国内外での販売を強化しています。

グラフィックシステム事業では、新興国の需要拡大や、CTP化の進展に対応した生産能力拡大などにより、売上が増加しました。また、平成19年4月より、英国FUJIFILM Sericol社の耐候性に優れたUVインク・溶剤インクに対応した業務用インクジェットプリンターを北米市場で発売し、さらに販売エリアを欧州・アジアへと拡大させています。

フラットパネルディスプレイ材料事業では、液晶ディスプレイの旺盛な需要に支えられ、主力製品「フジタック」「WVフィルム」の売上が伸張。富士フイルム九州 第2工場では、平成19年8月、平成20年1月に新生産ラインが稼働し、「フジタック」や「IPSモード向け高機能フィルム」の生産能力を拡大しています。

情報・産業機材事業では、カメラ付き携帯電話の高画素化・高付加価値化が進む中、小型・軽量・高画質でオートフォーカス化・ズーム化に対応したカメラ付き携帯電話用レンズユニットが市場で高く評価され、売上を増加しました。

アスタキサンチンとコラーゲンの
トータル内外美容ネットワークでエイジングケア!

スキンケアシリーズ「ASTALIFT」のラインアップ拡充

CoQ10の約1,000倍※もの美容パワーを持つアスタキサンチンや、コラーゲンなど選び抜かれた成分が、身体の中にきちんと届く「アスタリフト」シリーズ。本年3月にはクレンジングジェル、リキッドソープ、デイプロテクターと、サプリメント、ドリンクを加え、身体の内と外から肌の美しさをサポートします。

※当社調べ

富士フイルム ヘルスケア ラボラトリー
Web http://www.ffhc.jp 電話 0120-596-221

Close up ▶ 急成長するオフセット印刷用刷版材料「CTP版」の生産能力増強

世界的に需要が拡大し続けている「CTP版」。これに対応するため、オランダのFUJIFILM Manufacturing Europe B.V.に生産ライン、富士フイルム 吉田南工場に加工ラインを新設します。

FUJIFILM Manufacturing Europe B.V.では、環境に配慮した「無処理CTP版」「ケミカルフリーCTP版」も生産予定。さらに、成長著しい中東地域などへの供給も行っていきます。

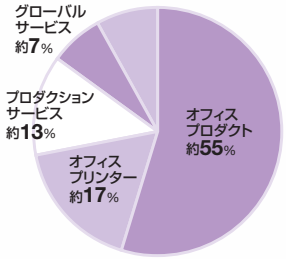
今後、富士フイルムは、世界シェア4割のトップシェア獲得を目指していきます。

▲CTP版生産ラインを新設する
FUJIFILM Manufacturing Europe B.V.

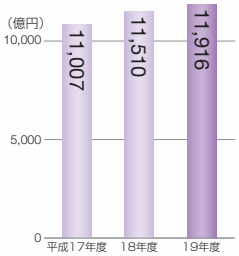
ドキュメント ソリューション

ドキュメント　ソリューション部門は、オフィス用複写機・複合機、プリンター、プロダクションサービス関連商品、用紙、消耗品、オフィスサービス等から構成されています。

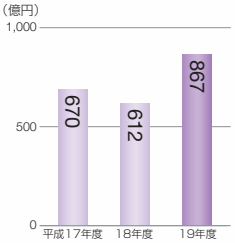
事業別売上構成比



連結売上高



営業利益



カラーデジタル複合機のアジア・中国地域での販売や欧米向け輸出の増加、調達コスト低減、生産性改善などにより、増収・大幅増益を達成

ドキュメント ソリューションは、カラーデジタル複合機やオンデマンド・パブリッシング（POD）のアジア・中国地域での販売及び欧米向け輸出が好調に推移したことにより、1兆1,916億円（対前年比3.5%増）となりました。

オフィスプロダクト事業は、国内では、フルカラーデジタル複合機「ApeosPort-Ⅲ C3300/2200」などの販売が好調でしたが、モノクロ機を中心に需要が減少し、販売台数全体ではやや低調に推移。一方、アジア・中国地域では、カラー機の販売が大きく増加しました。また、米ゼロックス社が実施した販売チャネルの買収によって、同社向け輸出が増加したことなどから、欧米向けの出荷台数が大幅に増加しました。

オフィスプリンター事業では、国内では主力カラーレーザープリンター「DocuPrint C3050」に加え、新開発のLEDプリントヘッドを搭載した「DocuPrint C2250」の販売を開始し、自社ブランド製品の売上は増加しましたが、OEM供給先の販売が総じて低調に推移した影響を受け、OEM売上は減少しました。また、アジア・中国地域では、市場の継続的な成長を背景として、カラー機・モノクロ機とも販売が増加しました。

プロダクションサービス事業では、国内ではデジタル印刷市場向けのカラーPODシステムの販売台数は増加したものの、モノクロ機の減少、競争激化による単価ダウンなどにより、売上がやや低調に推移。一方、米ゼロックス社向け輸出で、カラーエントリーモデル「DocuColor 5000 Digital Press」の販売が好調に推移しました。また、アジア・中国地域では、カラーエントリーモデルに加え、モノクロ機の販売台数も増加しました。

グローバルサービス事業では、お客様の業務プロセス改善に向けたコンサルティングや、ドキュメント管理業務全般の運用などを行うドキュメントアウトソーシングビジネスが、国内外ともに引き続き伸張しました。

新プリント技術と業界初となる
環境技術を採用

カラーデジタル複合機
「ApeosPort-Ⅲ C3300/C2200」

高解像度・高画質を実現する新開発のLEDプリントヘッドを搭載し、省電力・省スペース化も可能にした「ApeosPort-Ⅲ C3300/2200」。業界で初めて植物由来成分を30重量%以上含む新開発のバイオマスプラスチックを本体可動部分に採用したほか、シャフト部品の鉛フリー化、樹脂材料のハロゲンフリー化も実現しました。

eco products awards 2007

第4回エコプロダクツ大賞エコプロダクツ部門
経済産業大臣賞受賞

Close up ▶ 富士ゼロックスのコーポレートロゴを一新

FUJI xerox

富士ゼロックスは、4月1日より、コーポレートロゴを一新しました。新しいコーポレートロゴは、「お客様中心」の姿勢で、複雑な業務課題や経営課題をお客様と一緒になって考え、解決するとの約束を伝えるため、より親しみやすく、快活なイメージを表現。鮮やかな赤を使用して、お客様やパートナー・業界・社会との密接な連携を示し、グローバルをイメージさせる球体のシンボルと一体化しました。

富士ゼロックスは、ドキュメント・マネジメント分野で、最適なサービス・ソリューションを提供し、お客様の新たな価値創造とビジネスの成長に貢献していきます。

中長期的な事業展開を見据えた

成長戦略のさらなる推進

リーディングメーカーとして、ニーズに合わせた開発と安定供給を進める

フラットパネルディスプレイ(FPD)材料事業

高付加価値・高生産性でFPD市場に貢献する富士フイルムのFPD材料製品

液晶ディスプレイは、パソコン用液晶モニターの堅調な需要拡大に加え、液晶テレビが日米欧などで急速に普及していることで、世界的に需要が急拡大しています。また、ディスプレイの大サイズ化も進んでおり、パネル出荷面積は年率約20%の伸びが予測されています。

富士フイルムはこの成長著しい液晶ディスプレイ市場に対して、「フジタック」「WVフィルム」などの液晶ディスプレイの製造に欠かせないFPD材料を供給しています。需要拡大に伴って、当社製品の売上も着実に増加。また、好機をとらえた設備投資で生産能力を拡大し、主力事業として富士フイルムの成長を牽引しています。

ディスプレイサイズの大型化を見据えた積極的な設備投資と製品開発

現在、「フジタック」の中核生産拠点である富士フイルム九州の新工場を順次稼働させ、生産能力を拡大しています。また、40インチ以上の大型液晶テレビの効率的な生産に適した「超広幅フジタック」の開発・生産を進める富士フイルム　神奈川工場　足柄サイトの新ラインも稼働。市場ニーズを的確にとらえ、他に先んじた展開を進めています。

▲富士フイルム　神奈川工場 足柄サイトで生産開始した「超広幅フジタック」。大型パネル生産時にも無駄が少なく、トータルコスト削減にも寄与

一方、「WVフィルム」については、富士フイルムオプトマテリアルズ(静岡県)において、第9工場の建設を急ピッチで進めています(平成21年4月稼働予定)。また、「WVフィルム」の第3世代となる「WV-EA」は、①上下左右とも視野角を160°以上に広げ、正面以外からの角度からもさらに見やすく、②当社独自の精密塗布・素材技術を駆使して、塗布層の厚みの均一性を高めたことにより、画質を著しく向上するなど、性能を大幅に改善しました。これにより、液晶モニターや小型の液晶テレビだけでなく、26インチの液晶テレビにも搭載されるようになり、さらに需要が拡大しています。

液晶ディスプレイ(TN-TFT LCD)にはこんな富士フイルム製品が使われています

WVフィルム

富士フイルムが独自に開発した視野角拡大フィルム。偏光板に組み込むだけで視野角を大幅に広げる効果があるため、低コストでディスプレイの画質を向上できる。

フジタック

偏光板の保護に使用されるフィルム。写真フィルムの支持体であるTACフィルムをベースに開発された。高い光学性能を持ち、透明性と表面の平滑性に優れ、世界シェア8割を誇る。「WVフィルム」の支持体としても使用されている。

CVフィルム

反射防止フィルム。光の散乱技術と低反射化技術により、外光の影響による画像の見にくさを低減し、コントラストの高い画像を実現する。

トランサー

LCD向けカラーフィルター作製用フィルム。このフィルムから赤・緑・青・黒の色層をガラス基板に転写してカラーフィルターを作る。この方式は世界初で、大型パネル製造にも適している。

TNモード液晶テレビの性能改善に寄与する第3世代WVフィルム「WV-EA」

黒い部分がより締まった黒に

白い部分はより白らしく

「WV-EA」がFPD業界の発展に大きく寄与したと評価され、国内外で権威ある賞「アドバンスト ディスプレイ オブ ザ イヤー2008 部品・材料部門 グランプリ」「SID Display Component of the Year Silver Award」をダブル受賞。今後、さらなるディスプレイの大型化を視野に入れた開発を進めていきます。

創薬メーカー 富山化学を連結子会社化

予防～診断～治療の領域をトータルでカバーする総合ヘルスケアカンパニーを目指す

メディカルシステム・ライフサイエンス事業

富士フイルムホールディングスは、本年2月に大正製薬(株)、ならびに富山化学工業(株)と戦略的資本・業務提携を締結。富山化学の普通株式および新株予約権に対する公開買付を実施し、3月26日付で富山化学は当社の連結子会社となりました。

富山化学は、抗生物質などさまざまな医療用医薬品の開発に取り組み、インフルエンザ治療薬やアルツハイマー病治療薬など、必要性が高まる新薬候補(パイプライン)を数多く保有する、独創的で優れた創薬力を持つ研究開発型の創薬メーカーです。

富士フイルムは、メディカルシステム・ライフサイエンス事業を成長戦略を担う重点事業の一つとして位置づけ、これまでX線画像診断や内視鏡など「診断」分野を中心に、機能性化粧品や機能性食品など「予防」分野にも事業領域を広げ、展開してきました。今後、富山化学を中核とする「治療」分野へも事業領域を拡大し、「予防～診断～治療」をトータルでカバーする総合ヘルスケアカンパニーへとさらに大きく成長し、人々のクォリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与していきます。

富士フイルムグループ メディカルシステム・ライフサイエンス事業領域

予防

富士フイルム
機能性食品

富士フイルム
機能性化粧品

事業拡大

診断

富士フイルム
デジタルX線画像診断システム「FCR」

フジノン
電子内視鏡

富士フイルム
医用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」

富士フイルム
血液診断システム「富士ドライケム」

富士フイルムRIファーマ
放射性診断薬／放射性治療薬

事業拡大

治療

富山化学
医療用医薬品

「抗感染症」「中枢・循環器」「抗炎症」の3つの領域について重点的に研究開発を行い、合成ペニシリン製剤や抗菌製剤などの医薬品、インフルエンザ治療薬、アルツハイマー病治療薬など数多くの新薬候補を保有する創薬メーカー

〈 重点研究領域 〉

抗感染症領域
細菌・真菌・ウイルスなど

中枢・循環器領域
アルツハイマー病など

抗炎症領域
関節リウマチ・腎炎など

富士フイルムの独自技術を創薬に生かす

富山化学とのシナジーを最大限に発揮し、市場を拓く

富士フイルムは、写真フィルムやメディカルシステム・ライフサイエンス製品などの開発を通じて培った、独自の高い技術を持っています。その中には、ナノ粒子化技術や有機合成技術、解析技術など、医薬品開発に応用できる技術が多数あります。それらと富山化学の高い創薬技術を合わせて、「異業種連携ならではの独自のプロセスで新薬を創出する」という、ユニークな新薬開発を目指していきます。

また、富士フイルムファインケミカルズなどグループ内の連携を生かし、生産体制の効率化から海外インフラを活用した海外での開発・販売展開までも見据えています。

富士フイルムグループの強みを生かして、スピード感をもって医療用医薬品を中心とする治療領域での事業展開に積極的に取り組むとともに、「予防～診断～治療」の領域をトータルでカバーするメディカルシステム・ライフサイエンス事業の売上高を、10年後1兆円規模に大きく成長させていきます。

富士フイルムと富山化学による「異業種連携による新薬創出モデル」

世界基準の有力創薬企業として大きく飛躍

富士フイルムと富山化学のシナジー効果

- 有力なパイプラインをグループ内で育て、価値を最大化
- 相互技術融合による新薬開発のスピードアップと革新的新薬の継続的創出
- 資金力を生かした開発・生産体制の強化
- グローバルネットワークを活用した販売体制の強化
- グループ内企業との連携による生産の効率化

富山化学

- 競争力のある新薬パイプライン
- 創薬力・ノウハウ
- 独創的で優れた研究開発

＋

FUJIFILM

写真フィルムなどの研究で培った独自技術

1. 画像・診断技術などイメージング技術の応用
2. FTD（Formulation・Targeting・Delivery）技術
   ナノ化して吸収・浸透を高めることで、少量でも効果を引き出す
3. コラーゲン／ゼラチンなどの特徴的な材料技術
4. 有機合成技術
   製薬企業とは異なるコンセプトの20万種に及ぶ化合物ライブラリー
5. 解析技術／創薬支援システム

富士フイルムファインケミカルズによる医薬品原薬・中間体の生産

グローバルネットワークと「信頼」のブランド

ドキュメント事業の成長を担う富士ゼロックスの“頭脳”

新たな統合R&D拠点を横浜市「みなとみらい21」に開設

富士ゼロックスは研究開発機能の強化のため、平成22年春に横浜市「みなとみらい21」に都市型の新R&D拠点を開設。既存の研究開発拠点を集約し、領域を越えた各機能の連携の強化や、商品開発のリードタイム短縮、研究開発コストの削減、市場ニーズへの迅速な対応を目指します。

新拠点のコンセプトは「徹底したお客様視点での新しい価値の創造」。開発・生産の構造改革の一環で、新たにモノ作り研究開発の拠点とした海老名事業所との連携により、より価値の高い商品およびサービスを迅速にお客様に提供していきます。

連結財務諸表

■連結貸借対照表

単位:百万円

科 目	平成19年度	平成18年度
資産の部		
流動資産	1,511,952	1,585,249
投資及び長期債権	414,855	484,672
有形固定資産及びその他の資産	1,339,577	1,249,181
資産合計	**3,266,384**	**3,319,102**
負債の部		
流動負債	754,631	781,364
固定負債	460,408	449,202
少数株主持分	128,992	112,028
資本の部		
資本金	40,363	40,363
資本剰余金	69,329	68,412
利益剰余金	1,923,432	1,840,168
その他	△110,771	27,565
資本合計	**1,922,353**	**1,976,508**
負債及び資本合計	**3,266,384**	**3,319,102**

■連結損益計算書

単位:百万円

科 目	平成19年度	平成18年度
売上高	2,846,828	2,782,526
営業利益	207,342	113,062
税引前利益	199,342	103,264
当期純利益	104,431	34,446

■連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科 目	平成19年度	平成18年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	298,110	297,276
投資活動によるキャッシュ・フロー	△259,715	△298,001
財務活動によるキャッシュ・フロー	△72,308	158,287
為替変動による現金及び現金同等物への影響	△19,880	8,559
現金及び現金同等物純増加・純減少(△)	△53,793	166,121
現金及び現金同等物期首残高	384,719	218,598
現金及び現金同等物期末残高	**330,926**	**384,719**

株主・投資家情報Webサイトリニューアル

URL **http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/**

富士フイルムグループをより深く理解していただけるように、コンテンツを大幅に充実。新たに、株式に関する手続きなどの情報や事業説明会の資料なども掲載しています。また、知りたい、調べたい情報を見つけやすいように、検索性や操作性も向上させました。ぜひご覧ください。

株主と株式の概況

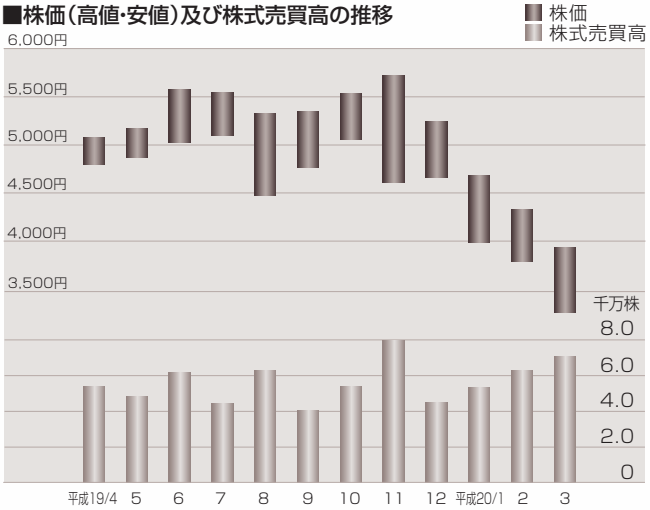
■株式の状況

	平成19年度	平成18年度
株主数	41,326名	31,551名
発行済株式数	514,626千株	514,626千株
	(平成20年3月31日)	(平成19年3月31日)

■所有者別分布(株式数と比率)

	平成19年度	平成18年度
金融機関	198,337千株(38.5%)	187,865千株(36.5%)
証券会社	8,670千株(1.7%)	9,082千株(1.7%)
その他法人	22,153千株(4.3%)	20,084千株(3.9%)
個人･その他	35,724千株(7.0%)	35,800千株(7.0%)
外国法人等	239,552千株(46.5%)	258,329千株(50.2%)
自己株式	10,190千株(2.0%)	3,466千株(0.7%)
計	514,626千株(100%)	514,626千株(100%)
	(平成20年3月31日)	(平成19年3月31日)

■株価(高値･安値)及び株式売買高の推移



株価及び株式売買高は、東京証券取引所におけるものです。

表紙写真／「群馬県 至仏山」 写真家:山梨 勝弘氏
※この作品は、FUJIFILM SQUARE「フォトマルシェ」
(東京ミッドタウン本社 1階)にてお買い求めいただけます。

会社概要

- ●設　　立　昭和9年1月20日
- ●資 本 金　40,363百万円(平成20年3月31日現在)
- ●本　　社　東京都港区赤坂9丁目7番3号(東京ミッドタウン)
- ●連結従業員数　78,321名

インターネットで当社に関する情報がご覧になれます。
http://www.fujifilmholdings.com

株主メモ

- ●事業年度末日　3月31日
- ●定時株主総会　6月下旬
- ●公告掲載　当社ホームページに掲載します。
  URL(アドレス)は次のとおりです。
  http://www.fujifilmholdings.com
  ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
- ●株主名簿管理人　東京都港区芝3丁目33番1号
  中央三井信託銀行株式会社
- ●同事務取扱場所　東京都港区芝3丁目33番1号
  中央三井信託銀行株式会社 本店
  (同送付先･連絡先)　〒168-0063
  東京都杉並区和泉2丁目8番4号
  中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
  電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
- ●同取次所　中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
  日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の中央三井信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
電話 0120-87-2031(音声自動応答)
インターネットホームページ
http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

- ●単元株式数　100株
- ●単元未満株式の買取請求及び買増請求について

単元未満株式(1株から99株の株式)の買取請求(ご売却)及び買増請求(ご購入)については、上記の事務取扱場所･取次所でお取扱いたしております。ただし(株)証券保管振替機構に株券を預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

FUJIFILM
富士フイルム ホールディングス株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂9丁目7番3号
電話 (03)6271-1111(大代表)

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-1376
© 1996 Forest Stewardship Council
GPN Green Purchasing Network 印刷サービス
印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます

FUJIFILM

ピン！と弾む、上向き美肌へ。

ASTALIFT

左から）クレンジングジェル NEW ／クリーム／リキッドソープ NEW ／デイプロテクター NEW
ローション／エッセンス／ドリンク NEW ／サプリメント NEW

NEW

健やかな輝きが、満ちてくる。

nano filt

左から）クリアソープ ／クレンジングジェル／ローションI（さっぱり）／エマルジョンI（さっぱり）
ローションII（しっとり）／エマルジョンII（しっとり）／デイプロテクター

ぽっこりが気になる人に。
新発想のマルチサプリメント

メタバリア

今注目の天然素材「サラシア」配合

きっちり控える・どんどん促す・しっかり整える に働く！

見えないダメージが気になる人に。
新発想のマルチサプリメント

オキシバリア

CoQ10の約1000倍の健康パワー「アスタキサンチン」配合

アスタキサンチン＋α-リポ酸＋セレン亜鉛＋ビタミンC マルチで活躍！

ご注文はインターネット・電話・FAXで

インターネットでのご注文 http://www.ffhc.jp 年中無休 24時間受付

お電話でのご注文 0120-596-221 9:00～19:00（年末年始除く）※携帯電話、PHSからもご利用いただけます。

FAXでのご注文 0120-796-221 年中無休 24時間受付（FAX専用）

株式会社 富士フイルム ヘルスケア ラボラトリー